

防犯・防災部会

平成23年度大乗地区第1回防災訓練

1. 日時 平成23年10月30日（日曜日）9時より
2. 場所 大乗コミュニティセンター
受付 二階ロビー
開閉会式会場 二階ホール
訓練場 二階ホール 搬送方法 応急処置
二階図書館 AED
玄関前 消火活動



3. 開会式（開会に先立ち東日本大震災の犠牲者の冥福を祈り黙祷）
 - 開会の挨拶：植野 治ネットワーク防災部長
今年度初めての防災訓練である。この防災訓練に当たり、東広島市消防署員、また、第1分団3部分団の方々には指導をいただき感謝している。
3月11日に東日本大震災が発生し、現在も大変な状況にある。日本は震災の多い国であり、何時何処で震災が起こるか分からない。日頃から震災に備え訓練を行う事が必要だ。防災訓練は、5年間は市の援助をいただき開催するがその後は我々で行うようになる。
 - 指導者紹介 藤本 防災副部長
防災は、「自分の安全は自分で守る事が」基本である。本日の防災訓練は火災発生時の初期消火・傷病者に対しての応急処置と搬出や運搬・AEDによる蘇生方法等A・B・C・Dのグループに分かれ、順番に基本的な事を実際に行う。
指導は、東広島市消防署より8名、第1分団3部消防団員が行う。

消火器の取り扱い（初期消火）

- ◎ 消火器使用は、一番手っ取り早い消火方法である。消火器の寿命は5～6年で、その期間後は取り換えた方がよい。湿気の多いところで錆びたりしていたら破裂をすることもある。
竹原にも防火施設専門店があるので薬剤の詰め替えしてもらおうとよい。
- ◎ 消火器には、粉末の消火剤が噴出するものと泡によって消火するのがある。今日は訓練なので水消火器によって行う。
- ◎ 消火器の使い方



- ① 消火器を持って火元に近づく。
- ② 安全ピンをはずす。
- ③ ホースを火元に向けてレバーを握り薬剤を噴出させる。
- ④ 薬剤の噴出先は炎の上の方でなく、炎の根元を掃くようにして消火をする。
- ⑤ 消火器の薬剤には限度があるので十分に消火出来ない事がある。消防署の方に連絡を入れる。（あくまで初期消火である）
- ⑥ 危険な場合は、無理をせずに非難する。安全第一を忘れない。
- ⑦ 非難通路には、物を置かない。
- ⑧ 一番大切な事は、常日頃火災を起こさないように注意を怠らない事。

傷病者の搬送方法

- 傷病者を移動させるには、いろいろな方法がある
- ① 竹竿・棒状の物と毛布や衣類を利用して即席の担架を作る方法
毛布を三つ折りにたたみ四隅を抱えて担架として活用する。
 - ② 一人で背負って移動させる。その場合ロープ等を利用すれば楽に背負える。



- ③ 二人で腕を組んで傷病者を乗せて移動させる。
- ④ 家の中であれば、引っ張って滑らせて移動させる。この場合、毛布や布団の上に乗せて引っ張る方法や傷病者の衣服を掴んで引っ張る方法。またロープを利用して引っ張る方法等、いろいろな方法が考えられる。

傷病者の応急処置 (三角布を使った応急処置)

◎ 三角布での圧迫止血法

- ① 上肢・下肢の止血
患部に三角布たたんで当て、その上を包帯状にたたんだ三角布強く縛る。三角布がない時は、手の平・指で強く圧迫することでも止血出来る。
- ② 頭部の止血
頭頂患部にたたんだ三角布を当て、包帯状にたたんだ三角布で頭頂から顎を通し、顔面横で交差させ、その反対側の顔面横で結び固定する。

◎ 骨折時の三角布の使い方

- ① 副木 (代用品として本や板・傘等) を三角布を固定し、三角布を二つ折りにし、上肢を首に吊るし固定する。
- ② 下肢の場合は、副木をあて三角布で両端をしぼり固定する。
- ③ 三角布の代用として風呂敷やガムテープの利用も考えられる。



AEDを利用する蘇生方法

◎ 傷病者の意識や呼吸・心臓の活動の停止している場合に呼吸活動・心臓の活動を回復させる為に人口呼吸・心臓マッサージ・心臓に電気ショックを与え機能を復活させる。

- ① 意識の有無の確認。(肩を軽く叩きながら声かけをし意識の確認)
- ② 意識の無い場合。(119番通報をAEDがあれば持って来てもらう。)
- ③ 気道を確保し、呼吸の確認(耳を口や鼻に近づけ呼吸の有無を確かめる。)
- ④ 呼吸をしていない場合。
- ⑤ 人口呼吸・心臓マッサージの開始
 - ・気道確保 ⇨ 人口呼吸2回 ⇨ 心臓マッサージ30回繰り返し行う
 - ・AEDが届いたら、人口呼吸・心臓マッサージをしながら、AEDの電源を入れ指示に従って操作をする。(意識がもどるか救急車が到着するまで続ける)

- ※ ペースメーカーを入れている人は、パットを心臓から3センチ離して貼る。
- ※ AEDは身近な所に有る事が重要であるが、大乘地区では大乘小学校とバンブー体育館にしか設置されていない。緊急時に活用することが難しい。
従って、119番通報を入れ救急車の到着まで、人口呼吸と心臓マッサージをする。



閉会式

☆ 藤本 分団長

災害の無い事が一番であるが、東海・東南海・南海の三連動地震の発生が想定され、瀬戸内で、3メートル以上の津波が予想されている。それぞれの家庭で何処に避難するか話し合いをしていただきたい。

☆ 西原 防災副部長

東広島市消防署・地元消防団員・警察の皆様の協力と参加者へのお礼。

☆ 平成23年度防災訓練参加人数

- ☆ 地域の皆さん 高崎地区22名 福田地区20名 大乘地区19名
- ☆ 消防団 1分団3部23名 市消防団他10名 部会員他8名



総勢102名で実施した。